

平成 27 年度 血液凝固異常症全国調査のまとめ

平成27年度の血液凝固異常症全国調査は1,259施設(1,440担当部所)に調査用紙を送付し、平成27年5月31日時点における状況を報告していただくよう依頼した。調査対象期間は平成26年6月1日から平成27年5月31日までの1年間である。

新規に報告された症例による増加と、調査期間における死亡報告および調査期間以前の死亡例で新たに報告されたものによる減少を総合すると、平成27年5月31日現在で集計した日本全国に生存する血液凝固異常症の総数は、下表に示すように8,053例(HIV非感染7,324例、HIV感染729例)となった。このうち、小児の血液凝固異常症の総数は1,307例であった。

日本全国における血液凝固異常症総数

	血友病A	血友病B	VWD	類縁疾患	小計
HIV非感染生存	4434	897	1170	823	7324
(男性)	4397	883	522	414	6216
(女性)	37	14	648	409	1108
HIV感染生存	552	167	7	3	729
(男性)	552	167	2	0	721
(女性)	0	0	5	3	8
HIV非感染・感染生存合計	4986	1064	1177	826	8053
(男性)	4949	1050	524	414	6937
(女性)	37	14	653	412	1116
AIDS発症(生存)	123	42	2	0	167
(男性)	123	42	0	0	165
(女性)	0	0	2	0	2
HIV感染死亡(累積)	535	158	1	9	703
(男性)	533	156	1	7	697
(女性)	2	2	0	2	6
HIV感染総数(生存および累積死亡)	1087	325	8	12	1432
(男性)	1085	323	3	7	1418
(女性)	2	2	5	5	14

調査期間におけるHIV非感染の死亡報告は23例、HIV感染の死亡報告は6例であった。このうち報告された死因の中にHCVの感染が原因と考えられる重篤な肝疾患が含まれていたものは、HIV非感染で5例、HIV感染で1例であった。

C型肝炎の治療薬は2014年秋から2015年にかけてHCVに直接作用する抗ウイルス薬が登場し、インターフェロンを使用しない経口薬だけの治療法も可能になってきた。そこで、HCVの抗ウイルス薬についても平成27年度の調査項目に追加した。今回の調査ではそれらの治療例数はまだ少ない状況であったが、次年度以降の集計を注視していきたい。

HIV感染症例においては、新たなAIDS発症例は報告がなく、また、死亡時にAIDS指標疾患の罹患があった報告は1例であった。さらに、今年度のCD4陽性リンパ球数の平均値は530.3/μL、HIVのRNAコピー数は20あるいは40copies/mL未満の割合が88.1%と、HIVに関してはこれまでに引き続き比較的良好な状態が保たれている。

一方、患者さんの高齢化に伴う高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病、心筋梗塞などの血栓症が懸念されるようになった。そこで今年度も、治療を要する糖尿病、高血圧、高脂血症、あるいは頭蓋内出血の既往歴に加え、慢性腎臓病(CKD)および骨粗しょう症の状況と、喫煙についての集計を行った。

また、血液凝固異常症のQOLに関するインヒビター、家庭療法、定期補充療法などの情報は、これまでに引き続き集計を行っているが、これらに加え、凝固因子製剤の使用状況についての項目を集計に追加した。

血液凝固異常症全国調査は本邦における血液凝固異常症の全体を調査対象とし、その現状および問題点を把握するための唯一の調査であり、今後も調査票の回収率の向上に努めつつ、慎重な調査を継続していきたい。